



Sun Fire™ X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー 設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-0779-10
2007年2月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス被許者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Solaris, Sun Fire は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェイスは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Solaris, et Sun Fire sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. サーバーハードウェアの設置 1

設置の概要 1

スライドレール（別注品）によるサーバーのラックへの取り付け 2

スライドレール固定用ブラケットの分解 3

固定用ブラケットのシャーシへの取り付け 4

スライドレールアセンブリのラックへの取り付け 5

サーバーのラックへの取り付け 8

ケーブル管理アームの取り付け 10

スライドレールと CMA の動作確認 12

ケーブル配線 13

サーバーの電源投入と電源切断 15

スタンバイ電源を適用してサービスプロセッサを初期設定する 15

主電源モードでの電源投入 16

主電源モードでの電源切断 16

2.	サービスプロセッサ設定のための接続	17
	Integrated Lights Out Manager ソフトウェアの概要	17
	ILOM サービスプロセッサへの接続	19
	シリアル接続を使用した ILOM への接続	19
	イーサネット接続を使用した ILOM への接続	21
	DHCP を使用した ILOM イーサネットの設定	21
	静的イーサネット設定を使用した ILOM の設定	24
3.	オペレーティングシステムソフトウェアのセットアップ	27
	プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定	28
	インストールのためのワークシート	28
	プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	32
	コンソール出力のビデオポートへのリダイレクト (省略可)	34
	Solaris 10 ユーザーマニュアル	35
	Solaris 10 のトレーニング	35
	索引	37

はじめに

本書では、スライドレールでのサーバーハードウェアのラック取り付け、電源投入、および必要に応じて設定をカスタマイズするためのサービスプロセッサへの接続について説明します。プリインストールされたオペレーティングシステムに関する情報も提供されます。

サードパーティーの Web サイト

Sun™ 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

関連ドキュメント

サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。各サーバーモデルに該当する URL を参照してください。

Sun Fire X4600:

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4600/index.html

Sun Fire X4600 M2:

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4600m2/index.html

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris™ およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。本書についてのコメントは次のサイトから送信してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー設置マニュアル』、部品番号 820-0779-10

サーバーハードウェアの設置

注 – 本書の情報と手順は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーの両方に適用されます。

この章では、次の項目について説明します。

- 1 ページの「[設置の概要](#)」
- 2 ページの「[スライドレール（別注品）によるサーバーのラックへの取り付け](#)」
- 13 ページの「[ケーブル配線](#)」
- 15 ページの「[サーバーの電源投入と電源切断](#)」

設置の概要



注意 – 人体を損傷する恐れがあります。重大な人体損傷や装置破損を避けるため、この製品の取り扱い、または移動の際には、必ず 4 つすべてのシャーシハンドルを使用して製品の重量を支えるようにしてください。

サーバーを開梱したら、本書の指示に従って次の作業を行ってください。

1. スライドレール（別注品）を使用して、サーバーをラックに取り付けます。本書の 2 ページの「[スライドレール（別注品）によるサーバーのラックへの取り付け](#)」を参照してください。
2. ケーブルと周辺機器を接続します。サーバーの後面パネルのコネクタポートの図については、本書の 13 ページの「[ケーブル配線](#)」を参照してください。
3. 電源コードを接続し、本書の 15 ページの「[サーバーの電源投入と電源切断](#)」の指示に従って、サーバーの電源をオンにし、ブートします。

4. 本書の第 2 章、17 ページの「サービスプロセッサ設定のための接続」の指示に従って、サービスプロセッサに接続します。
5. プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムを設定するか、必要に応じて、サポートされているオペレーティングシステムをインストールします。次のいずれかを参照してください。
 - 本書の第 3 章、28 ページの「プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定」
 - 『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーのオペレーティングシステムインストールガイド』(820-0784)
 - 『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-0789)

スライドレール（別注品）によるサーバーのラックへの取り付け

スライドレール（別注品）を使用してサーバーを 4 支柱ラックに取り付ける場合には、次の手順で取り付け作業を行ってください。これらのスライドレールは、次の仕様を満たすあらゆる種類のラックに対応しています。

- 前後左右で固定する形式の 4 支柱ラック。2 支柱のラックにはマウントできません。
- 1 ユニットの幅と高さが ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 に適合すること。
- 前方と後方の支柱の間隔が 610 ～ 915 mm（24 ～ 36 インチ）であること。
- 前方の支柱とキャビネット前面ドアとの間に 25.4 mm（1 インチ）以上の間隔があること。
- 前方の支柱とキャビネット後面ドアとの間に 800 mm（31.5 インチ）以上の間隔があること。ただし、ケーブル管理アームを取り付けない場合には 700 mm（27.5 インチ）でかまいません。
- 前方の支柱と後方の支柱との間にある構造サポートとケーブルスルーとの距離が 456 mm（18 インチ）以上であること。



注意 – サーバーは必ず下から先にラックへ取り付けてください。上から順に取り付けるとラックが不安定になり、転倒する危険が生じます。転倒防止機構を装備しているラックであれば、サーバー取り付け時に活用してください。

スライドレール固定用ブラケットの分解

スライドレールアセンブリは、組み立てられた状態で出荷されています。サーバーに取り付けるには、次の手順に従って固定用ブラケットを取り外す必要があります。

1. スライドレールアセンブリを箱から取り出します。
2. アセンブリのスライドレールロックを押し、ストップに当たるまで、固定用ブラケットをスライドレールアセンブリから引き出します。図 1-1 を参照してください。
3. 「Push Here (ここを押す)」というラベルが付いている、固定用ブラケットリリースボタンを押しながら、スライドレールアセンブリから固定用ブラケットを引き抜きます。図 1-1 を参照してください。
4. 以上の分解作業を、残りのスライドレールに対してそれぞれ行います。

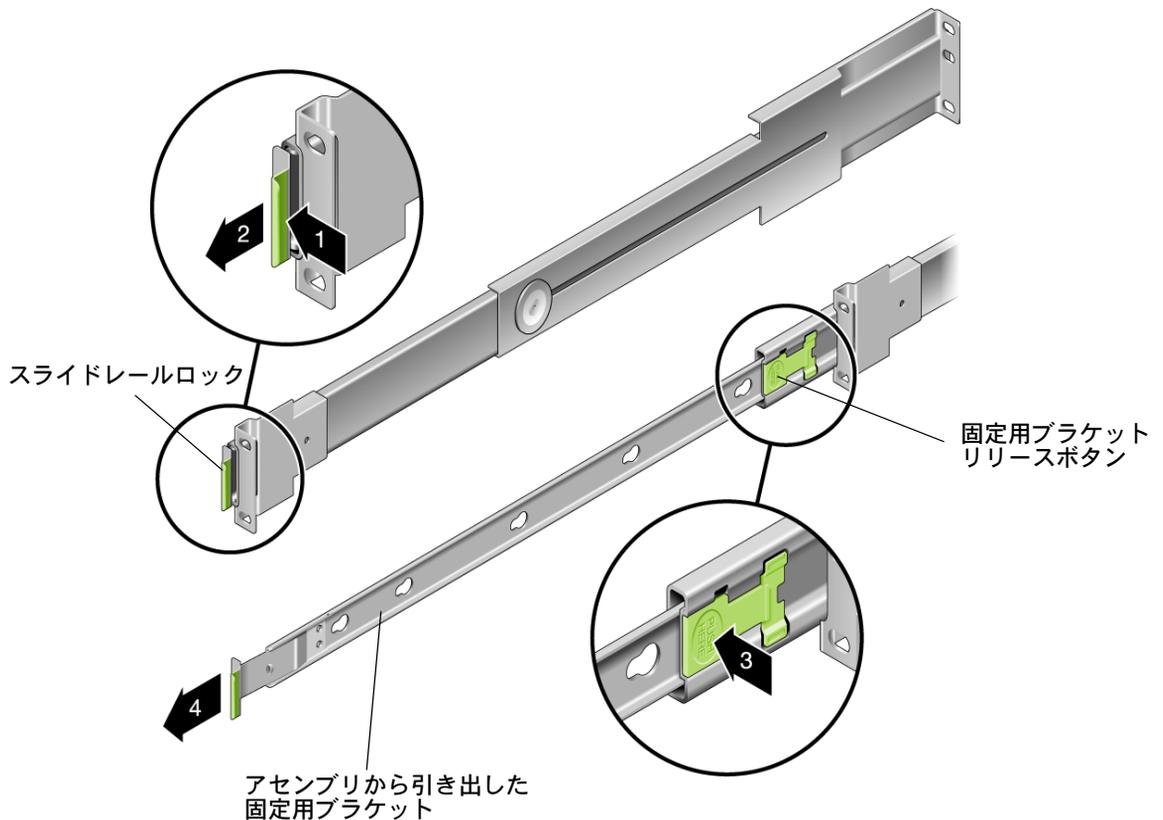


図 1-1 取り付け前のスライドレールアセンブリの分解

固定用ブラケットのシャーシへの取り付け

ここでは、サーバーシャーシに固定用ブラケットを取り付ける手順について説明します。

1. スライドレールロックがシャーシの前面を向くように固定用ブラケットを配置します。図 1-2 を参照してください。
2. シャーシ側面にある 6 つの爪に固定用ブラケットの開口部を合わせ、固定用ブラケットをぶら下げます。
3. 「カチッ」と音がして固定用ブラケットクリップが固定されるまで、固定用ブラケットをシャーシ背面の方向に動かします。図 1-2 を参照してください。
4. 6 つすべての爪が開口部に合致しており、最後尾の爪が固定用ブラケットクリップにはまっていることを確認します。
5. 同様の手順で、サーバーの反対側にも固定用ブラケットを取り付けます。

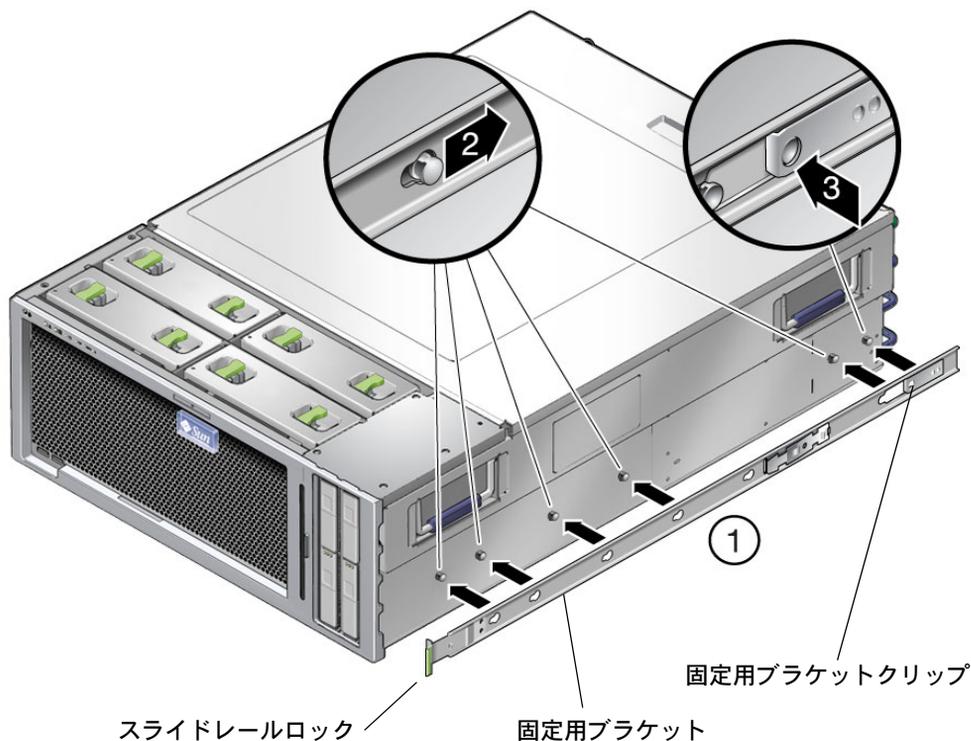


図 1-2 固定用ブラケットのサーバーシャーシへの取り付け

スライドレールアセンブリのラックへの取り付け

ここでは、固定用ブラケットの付いているサーバーを組み込む前に、ラックにスライドレールを取り付ける手順について説明します。

1. ラックのどこにサーバーを取り付けるかを確認します。Sun Fire X4500/X4600 ラックマウントテンプレート (263-2519) を使用すると、ラック内で十分なラックユニットスペースを確保できます。

Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーは、4 ラックユニットシステムです。Sun Fire X4500/X4600 ラックマウントテンプレートは、スライドレールアセンブリに同梱されている紙のテンプレートです。ラックの下部に取り付けられているシステムの上にラックマウントテンプレートを載せます。テンプレートの矢印は、以降の手順でスライドレールブラケットを取り付けるラック支柱のネジ穴を示します。

1 ユニットで 1 ラックユニットにつき 3 個の穴を使用するため、[図 1-3](#) に示すように、Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーは高さ方向で 12 個の穴を使用します。

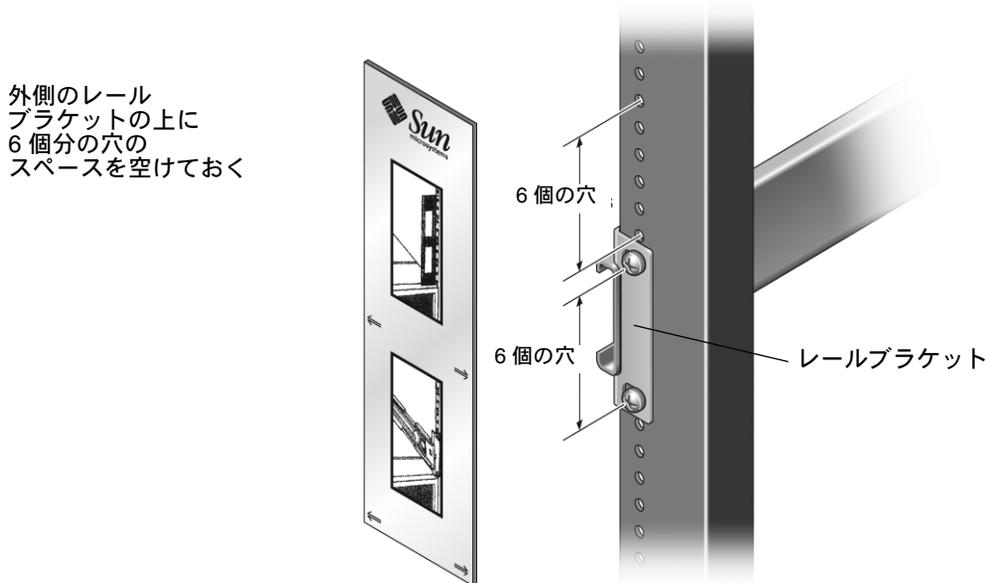


図 1-3 サーバーの取り付け位置の確認

2. サーバーの取り付け位置を決め、両端にあるブラケット前方後方ともにラックの支柱の外側に来るようにスライドレールアセンブリを配置します。図 1-4 を参照してください。

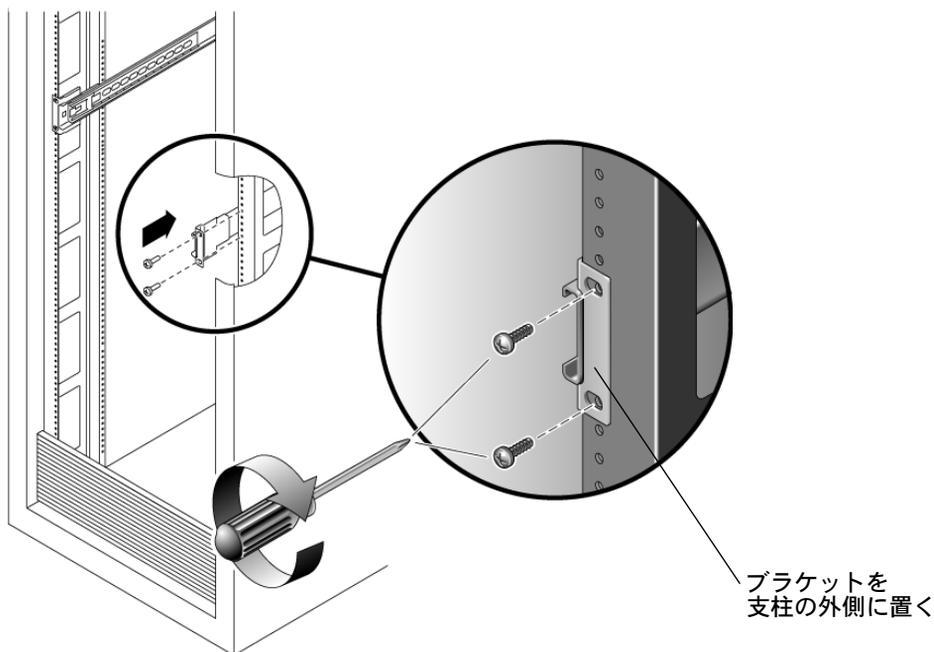


図 1-4 ラックのスライドレールアセンブリの配置

3. 同梱のプラスチック仮留めピンを使用して、スライドレールアセンブリを後方のラック支柱に取り付けます。
この仮留めピンでブラケットを後方のラック支柱に固定することで、前方のラック支柱の作業を両手で行うことができます。
 - a. 1 本の取り付けピンを後方のレールブラケットの上の穴に差し込みます (図 1-5 を参照)。
取り付けピンの位置を調整して、ピンの楕円形のネックをブラケットの楕円形の穴に合わせます。
 - b. 取り付けピンを右に 90 度回転させてロックし、ブラケットに固定します。

- c. ラックの正面に立ち、ブラケットを取り付けた状態で、ピンを後方のラック支柱の所定の穴に差し込みます (図 1-5 を参照)。

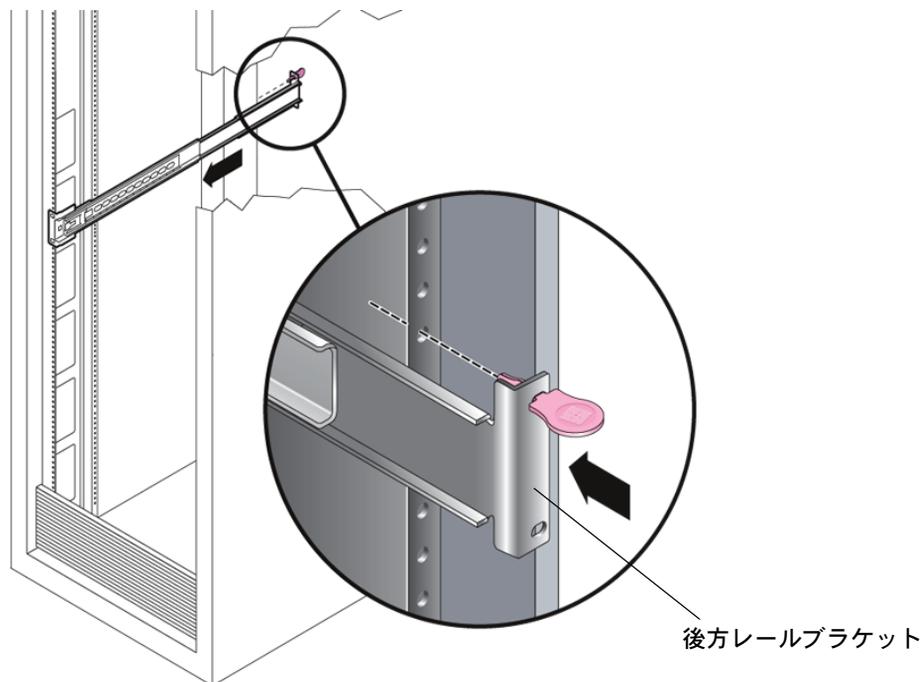


図 1-5 仮留めピンの挿入

4. 2本のネジを前方のブラケットの穴に取り付けます。図 1-4 を参照してください。
スライドレールの取り付け方法は、ラックの種類に応じて多少異なります。
 - ラック支柱のネジ穴がねじ切りされているタイプのラックでは、適合するサイズのネジをブラケット側から支柱にねじ込んでスライドレールを固定します。
 - ねじ切りされていないタイプのラックでは、ブラケットと支柱の穴の位置を合わせて適当な大きさのネジを差し込み、支柱の裏側から固定ナットをねじ込んでスライドレールを固定します。
5. ネジを後方のレールブラケットの下の穴に取り付けます。
6. 下のネジを取り付けたら、仮留めピンを上の方の穴から取り外し、その穴にネジを取り付けます。
7. 手順を繰り返して、残りのスライドレールアセンブリをラックに取り付けます。

サーバーのラックへの取り付け

ここでは、固定用ブラケットの付いているサーバーを、ラックに取り付けたスライドレールアセンブリに組み込む手順について説明します。



注意 – 人体を損傷する恐れがあります。すべてのコンポーネントが搭載されると、サーバーの重量は 85 ポンド (38.5 kg) になります。サーバーの組み込み作業は 2 人以上で行ってください。サーバーにはかなりの重量があるため、1 人で作業を行うと人体損傷または装置破損の恐れがあります。



注意 – 人体を損傷する恐れがあります。重大な人体損傷や装置破損を避けるため、この製品の取り扱い、または移動の際には、必ず 4 つすべてのシャーシハンドルを使用して製品の重量を支えるようにしてください。

1. サーバーを組み込む前に、スライドレールをスライドレールアセンブリの一番奥まで押し込みます。
2. サーバーを (2 人以上で) 持ち上げ、サーバー後面の固定用ブラケットの先端を、ラックに取り付けられているスライドレールアセンブリと同じ高さに合わせます。
図 1-6 を参照してください。
3. 左右の固定用ブラケットを同時にスライドレールに差し込み、シャーシ前面のスライドレールロックがスライドレールアセンブリにはまるまで、サーバーを押し込みます。

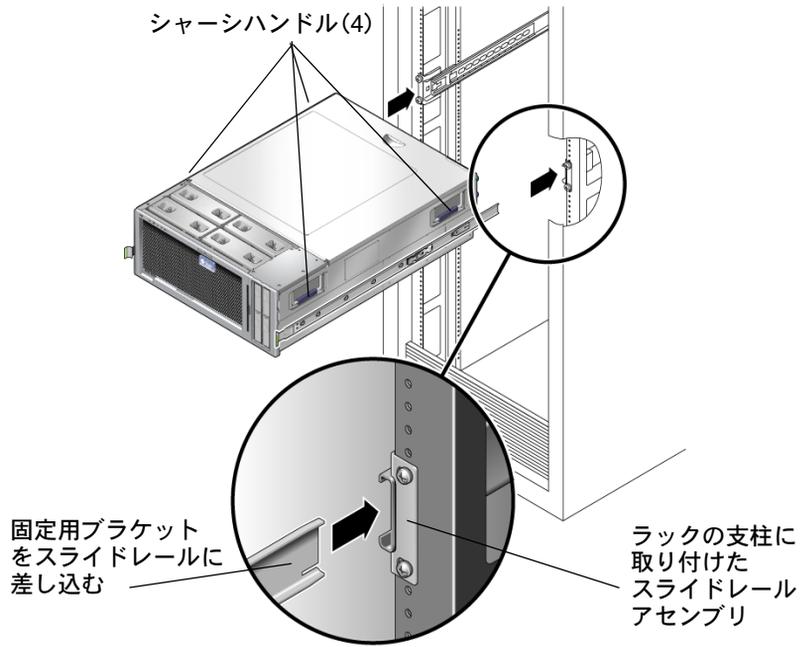


図 1-6 固定用ブラケットの付いたサーバーのスライドレールへの組み込み

ケーブル管理アームの取り付け

ケーブル管理アーム（CMA）はオプションですが、ケーブルの整理と安全な配線を行うのに役立ちます。CMA を取り付ける場合には、次の手順で作業を行ってください。

1. 製品パッケージから取り出した CMA キットを持って、ラックの背面に回ります。

注 - 次の説明では、作業員がラックの背後に立ってサーバー背面に正対していることを前提として「右」「左」を指示します。

2. CMA レールブラケットを右側のスライドレールアセンブリに差し込みます（[図 1-7](#)を参照）。
 - a. サーバーがラックに完全に押し込まれた状態で、ブラケットの固定チョウネジがスライドレールアセンブリの穴に合うまで、ブラケットをスライドレールアセンブリに押し込みます。
 - b. チョウネジを締めます。

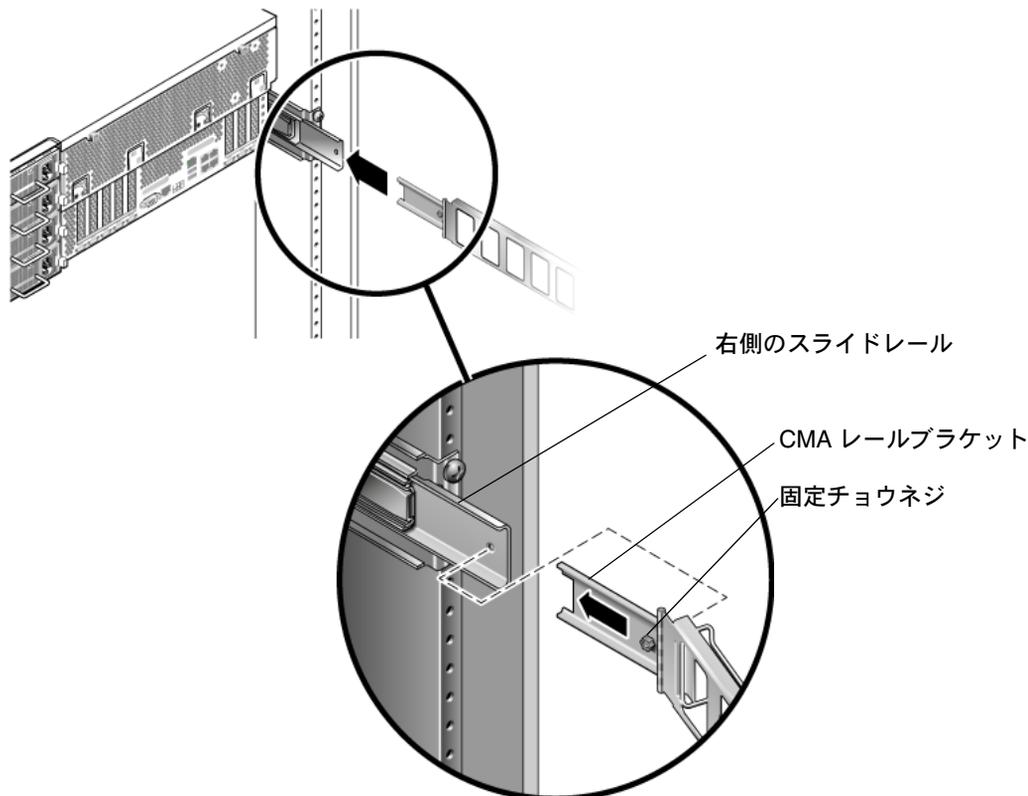


図 1-7 CMA レールブラケットのスライドレールアセンブリへの取り付け

3. CMA シャーシブラケットを CMA のもう片方側に取り付けます (図 1-8 を参照)。
 - a. ブラケットのベースにある 2 つの穴を、CMA の 2 つのピンに合わせます。
 - b. ブラケットのクリップがピンに固定されるまで、ブラケットを押し下げます。
4. CMA シャーシブラケットがサーバー背面にぴったりと合い、ブラケットの 3 つのチョウネジがシャーシの 3 つの穴と合うように、CMA を組みます。図 1-8 を参照してください。
5. ブラケットの 3 つの固定チョウネジをシャーシの穴に差し込んで締めます。図 1-8 を参照してください。
6. 必要に応じて、ケーブルをサーバーに接続し、CMA ケーブルハンガーを通して配線します。

サーバーの後面パネルコネクタについては、13 ページの「ケーブル配線」を参照してください。

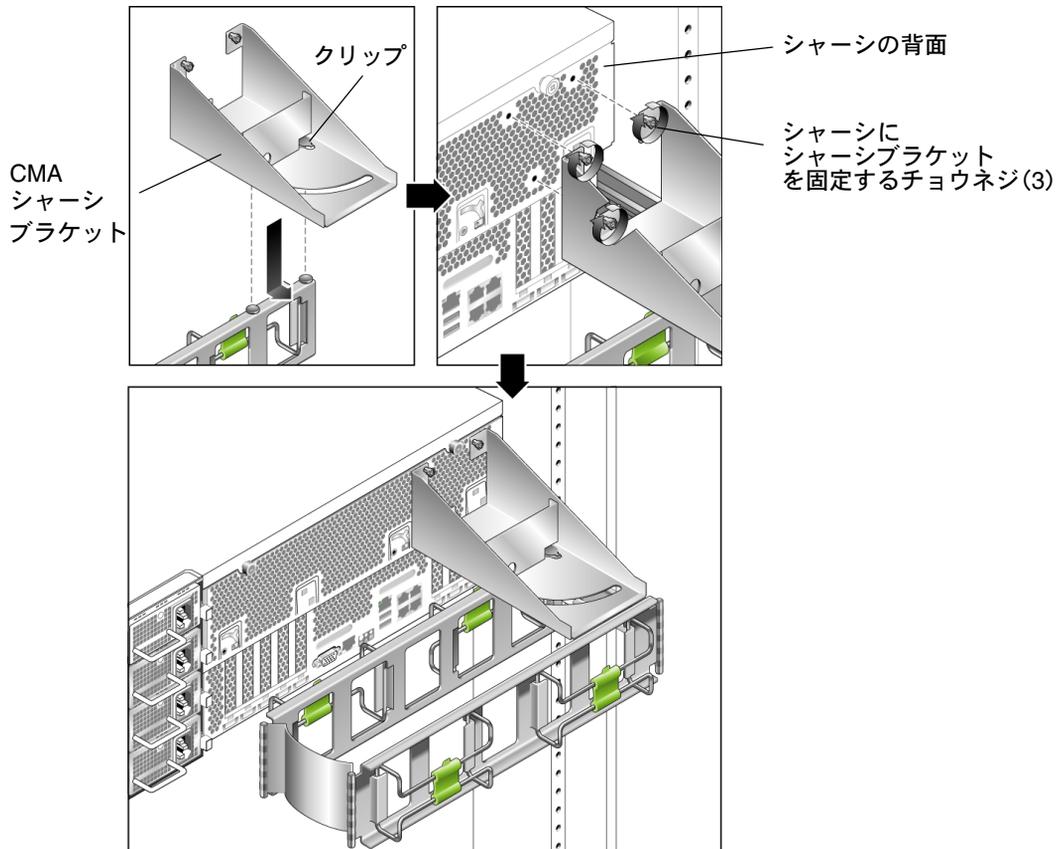


図 1-8 CMA とシャーシへの CMA シャーシブラケットの取り付け

スライドレールと CMA の動作確認

1. スライドレールがストッパに当たるまで、サーバーをラックからゆっくりと引っ張り出します。
2. 接続されているケーブルが、引っかかったり、ねじれたりしていないか点検します。
3. CMA がスライドレールから完全に伸びていること、スライドレールに留まっていないことを確認します。
4. ストッパに当たるまで、サーバーをラックに押し戻します。
5. 各スライドレールの固定用ブラケットリリースボタンを押しながら (図 1-1 を参照)、サーバーがストッパを越えるまで押し込みます。
6. 固定用ブラケットリリースボタンを放し、スライドレールのロックがかかるまで、サーバーをラックに完全に押し込みます。
7. 必要に応じて、ケーブルハンガーと CMA を調整し、再テストします。

ケーブル配線

必要に応じて、ケーブルをサーバーの後面パネルコネクタに接続します。図 1-9 を参照してください。

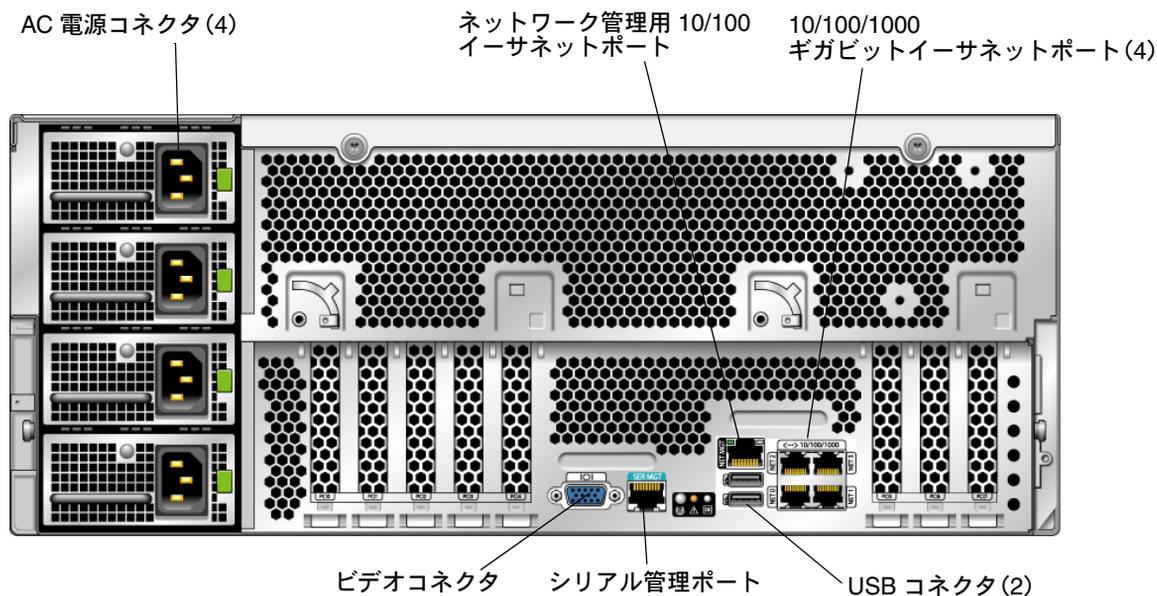


図 1-9 Sun Fire X4600/X4600 M2 サーバーの後面パネル

1. 必要に応じて、USB キーボードケーブルを USB コネクタに接続します。
2. 必要に応じて、USB マウスケーブルを USB コネクタに接続します。
3. 必要に応じて、ビデオモニターケーブルをビデオコネクタに接続します。

注 キーボード、マウス、ビデオは、ヘッドレス操作をサポートするオペレーティングシステムのオプションです。

4. 使用しているギガビットイーサネットまたは管理ネットワークに必要な場合は、イーサネットケーブルを NET コネクタに接続します。
 - ラベルが「NET 0」から「NET 3」のコネクタは、10/100/1000 ギガビットイーサネットポートです。
 - ラベルが「NET MGT」のポートは、10/100 イーサネットポートで、システムを管理ネットワークに接続できます。

5. 必要に応じて、RJ-45 シリアルポートケーブルを「SER MGT」コネクタに接続します。

シリアルポートおよびシリアルポートのケーブル配線に関して次の考慮事項に留意してください。

- デフォルトのシリアルポート速度は、フローコントロールなしの 9600 ボーです。
- 互換性のある Sun RJ45-to-DB9 アダプタ (部品番号 530-3100) がシステムに付属しています。
- それ以外に互換性のあるケーブルには、CISCO 72-3383-01 コンソールケーブルがあります。
- Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーは、Sun Netra などの Sun Fire システム上で RSC/ALOM/ALOM Plus カードの RJ-45 ポートと同じピン配列を使用します。図 1-10 および表 1-1 を参照してください。

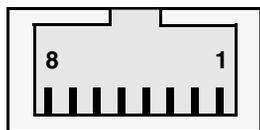


図 1-10 シリアルコネクタの図

表 1-1 シリアルコネクタのピンアウト

ピン番号	ピン名	説明
1	RTS	送信要求
2	DTR	データ端末レディ
3	TXD	データ送信
4	GND	アース
5	GND	アース
6	RXD	データ受信
7	DSR	データ送信レディ
8	CTS	送信許可

6. 15 ページの「サーバーの電源投入と電源切断」に進みます。

サーバーの電源投入と電源切断

この時点では、サービスプロセッサ (SP) の初期設定を実行できるように、サーバーにスタンバイ電源のみを適用する必要があります。このセクションでは、主電源モードをオンにする手順およびシャットダウンする手順の両方について説明します。

スタンバイ電源を適用してサービスプロセッサを初期設定する

この手順を使用して、初期設定の前にサービスプロセッサ (SP) にスタンバイ電源を適用します。



注意 – 装置を破損する恐れがあります。必ず、ファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフル、カバーをすべて取り付けて、サーバーを操作してください。適切な冷却メカニズムがない状態で操作すると、サーバーのコンポーネントに深刻な損傷が生じることがあります。



注意 – 1つの分岐回路に、電源コードを2本まで接続できます。残りの電源コードは、2つ目の分岐回路に接続する必要があります。

1. 接地 AC 電源コードを、サーバー後面にある4つの AC 電源コネクタと2つの分岐回路にある接地 AC 電源コンセントに差し込みます (上記の「注意」を参照)。

電源が接続されると、サーバーはスタンバイ電源モードでブートします。SP がブートし、使用可能な状態になると、前面パネルにある電源 /OK LED が点滅し、スタンバイ電源モードを示します。LED の位置については、[図 1-11](#) を参照してください。

注 – この時点では、スタンバイ電源は、Graphics Redirect and Service Processor (GRASP) ボードと電源ファンにのみ供給されます。本書の第2章に進み、SP の初期設定を開始してください。プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールまたは設定する準備が整うまで、主電源をサーバーのほかの部分には入れないでください。

2. 本書の第2章の指示に従って、サービスプロセッサに接続します。

主電源モードでの電源投入

- すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入するには、次の手順に従います。
 - a. 電源コードが接続され、スタンバイ電源がオンの状態であることを確認します。
スタンバイ電源モードでは、前面パネルの電源 /OK LED が点滅します。
 - b. サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンを先のとがったもので押します。図 1-11 を参照してください。
主電源がサーバー全体に供給されると、電源ボタンの隣にある電源 /OK LED が点灯し続けます。



図 1-11 Sun Fire X4600/X4600 M2 サーバーの前面パネル

主電源モードでの電源切断

- 主電源モードからサーバーの電源をオフにするには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。
 - 適切な順序でのシャットダウン。前面パネルにある電源ボタンを先のとがったもので押して、ボタンを元に戻します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効な OS を稼働していないサーバーは、即座にスタンバイ電源モードにシャットダウンされます。
 - 緊急シャットダウン。電源ボタンを 4 秒間押し続けると、主電源がオフになりスタンバイ電源モードになります。

主電源がオフになると、前面パネルにある電源 /OK LED が点滅を始め、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。



注意 - サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーの後面パネルから AC 電源コードを取り外す必要があります。

サービスプロセッサ設定のための 接続

この章では、初期設定タスクを実行するために、サーバーの Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP) との接続を確立するタスクについて説明します。この章では、次の項目について説明します。

- 17 ページの「Integrated Lights Out Manager ソフトウェアの概要」
- 19 ページの「ILOM サービスプロセッサへの接続」

Integrated Lights Out Manager ソフトウェアの概要

Sun™ ILOM ソフトウェアは、サーバーを管理するための強力なツールを提供します。

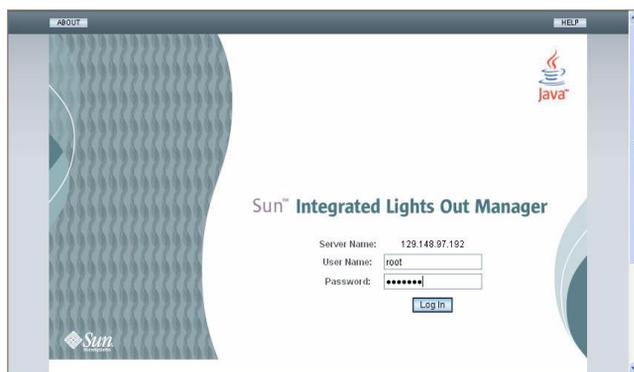


図 2-1 Integrated Lights Out Manager の GUI のログインページ

ILOM は、4 つのコンポーネントから構成されています。そのうちの 3 つのコンポーネントをホストサーバー上に、1 つをホストサーバーにアクセスするクライアントシステム上に配置します。4 つのコンポーネントは、次のとおりです。

- ILOM SP ハードウェア。サーバーには、次の機能を実行する Graphics Redirect and Service Processor (GRASP) が搭載されています。
 - ファン、ディスクドライブ、電源など、サーバーの交換可能なコンポーネントの状態と設定を監視します。
 - 外部の端末またはローカルエリアネットワーク (LAN) へのシリアル接続およびイーサネット接続を提供します。
- ILOM SP ファームウェア。GRASP ボードにプリインストールされている、システム管理ファームウェアアプリケーションのライブラリです。この ILOM ファームウェアは、オペレーティングシステムに依存しません。これらのファームウェアアプリケーションは、次のシステム管理インタフェースをサーバーに提供します。
 - Web ベースのグラフィカルインタフェース
 - Secure Shell (SSH) コマンドラインインタフェース
 - IPMI v2.0 コマンドインタフェース
 - シンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) v1、v2c、または v3 インタフェース

これらのインタフェースは、GRASP ボードで同じ基本システム管理機能を呼び出すため、これらの ILOM インタフェースを 1 つ以上使用するよう選択して、データセンター内で実行している他の管理インタフェースと統合できます。

- リモートコンソールアプリケーション。リモートコンソールアプリケーションは階層化ソフトウェアの 1 つで、リモートクライアントがビデオコネクタに直接接続されているかのように、ホストサーバーのグラフィカルコンソールを表示できます。リモートコンソールは、サーバーの VGA ビデオコネクタからの 1024 x 768 出力のミラーです。リモートのキーボード、マウス、CD ドライブ、またはディスクドライブが標準の USB デバイスとして表示されます。

注 - クライアントシステム上にリモートコンソールアプリケーションは必要ありませんが、Web ブラウザと Sun Java™ ランタイム環境バージョン 5.0 以降をクライアントシステムにインストールする必要があります。Java は <http://java.sun.com> から無料でダウンロードできます。

- クライアント側の Secure Shell アプリケーション。リモートの Secure Shell (SSH) から ILOM SP にアクセスするには、リモートのクライアントシステム (サーバー、ワークステーション、またはラップトップ) 上に Secure Shell 通信アプリケーションをインストールする必要があります。多くの Secure Shell 通信アプリケーションが、有償またはオープンソースで配布されています。オープンソースのクライアント側の SSH アプリケーションについては、<http://www.openssh.org> を参照してください。

サーバー上の ILOM ハードウェアおよびファームウェアには、現場で最もよく使用される設定を反映したデフォルト設定が使用されています。これらのデフォルトを変更する必要は特にありません。

ILOM サービスプロセッサへの接続

ILOM SP に接続して、初期セットアップと設定を行う方法は 2 つあります。次の手順のいずれかを選択します。

- [19 ページの「シリアル接続を使用した ILOM への接続」](#)
- [21 ページの「イーサネット接続を使用した ILOM への接続」](#)

シリアル接続を使用した ILOM への接続

この手順では、ILOM SP へのシリアル接続を確立し、ILOM の初期設定を行います。

注 – この手順は、本書の第 1 章に記載されているとおりに、ハードウェアの設置が完了し、サーバーにスタンバイ電源が適用されていることを前提としています。

1. 使用している端末、ラップトップ、または端末サーバーが稼働していることを確認します。
2. 端末デバイス、あるいはラップトップまたは PC 上で実行しているターミナルエミュレーションソフトウェアを次のように設定します。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
3. サーバーの後面パネルにある RJ-45 SERIAL MGT ポートからシリアルケーブルを端末デバイスに接続します。図 1-9 を参照してください。

4. 端末デバイスで、Enter キーを押して、端末デバイスと ILOM SP との接続を確立します。

SP によって次のようなログインプロンプトが表示されます。

```
SUNSP0003BA84D777 login (ログイン) :
```

この例のログインプロンプトの意味は次のとおりです。

- 文字列 SUNSP はすべての SP に共通です。
- 0003BA84D777 は、特定の SP のイーサネット MAC アドレスです。このアドレスは各サーバーによって異なります。

5. ILOM にログインします。

- a. デフォルトのユーザー名 (**root**) を入力します。

- b. デフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、SP にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

これで、CLI コマンドを実行して、ILOM でサーバーのユーザーアカウント、ネットワーク設定、アクセスリスト、警告などを設定できるようになります。CLI コマンドの詳細手順については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) を参照してください。

CLI を使用した静的ネットワークの設定手順については、[25 ページの「CLI を使用した静的 IP アドレスの設定」](#)を参照してください。

6. シリアルコンソールを起動するには、次のように入力します。

```
cd /SP/console
```

```
start
```

注 – シリアルコンソールから SP CLI に戻るには、**Esc** (キーシーケンスを入力します)。

7. サーバーの設定後、[27 ページの「オペレーティングシステムソフトウェアのセットアップ」](#)に進みます。

イーサネット接続を使用した ILOM への接続

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) など、ILOM のすべての機能を使用するには、LAN をイーサネットポートに接続し、イーサネット接続を設定する必要があります。

ILOM は動的ホスト構成プロトコル (DHCP) と静的 IP アドレッシングをサポートしています。

- DHCP を使用した設定については、21 ページの「[DHCP を使用した ILOM イーサネットの設定](#)」を参照してください。
- 静的 IP アドレスを使用した設定については、24 ページの「[静的イーサネット設定を使用した ILOM の設定](#)」を参照してください。

DHCP を使用した ILOM イーサネットの設定

注 – この手順は、本書の第 1 章に記載されているとおりに、ハードウェアの設置が完了し、サーバーにスタンバイ電源が適用されていることを前提としています。

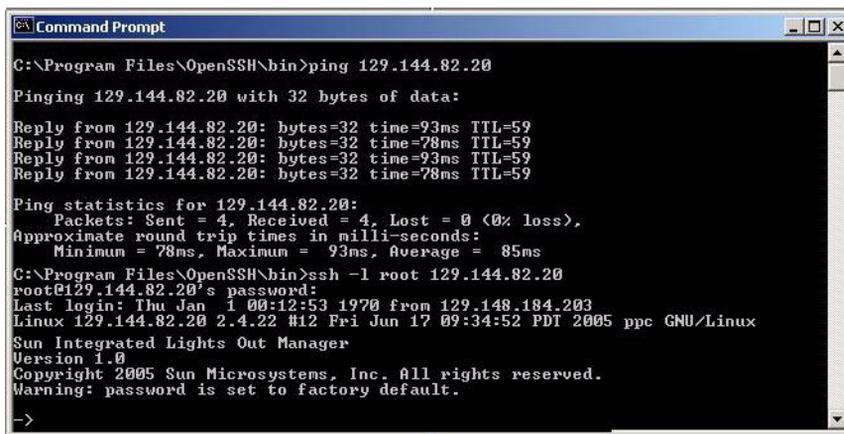
1. システム管理者に、DHCP サーバーが、新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるように設定されていることを確認します。
2. イーサネットケーブルをサーバーの RJ-45 NET MGT イーサネットポートに接続します。図 1-9 を参照してください。

ILOM SP が静的 IP アドレスを使用していない場合、MAC アドレスの ID を使用して DHCPDISCOVER パケットをブロードキャストします。LAN 上の DHCP サーバーは、IP アドレスなどの情報を含む DHCPOFFER パケットを返します。ILOM SP は、DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスの「リース」状況を管理します。
3. 次のいずれかの場所から ILOM SP の IP アドレスを取得します。今後の参照のために、その IP アドレスを記録します。
 - CLI コマンド。SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の IP アドレスが表示されます。
 - システムの BIOS セットアップ画面。ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」→「IP address (IP アドレス)」を選択します。
 - DHCP サーバーのログファイル。この方法を使用する場合は、次のステップ a からステップ c までを実行します。それ以外の場合は、ステップ 4 まで進みます。

- a. 次のいずれかの場所から ILOM SP の MAC アドレスを調べ、メモします。
- CLI コマンド。SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。
 - サーバーに付属のお客様情報シート。
 - システムの BIOS セットアップ画面。ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」→「MAC address (MAC アドレス)」を選択します。
- b. DHCP サーバーにログインし、DHCP ログファイルを確認します。

注 – これらのログファイルは、オペレーティングシステムや DHCP サーバーが異なると、保存される場所も異なります。DHCP システム管理者に相談して、ログファイルの正しいパスを探してください。

- c. ログファイルから、ILOM SP の MAC アドレスに対応する IP アドレスを特定します。
- 通常、DHCP ログファイルのエントリは、次のようにコンマで区切られたフィールドを持つ個別の行です。
- ID, Date, Time, Description, IP Address, Host Name, MAC Address*
- 正しい DHCP ファイルエントリの MAC Address (7 番目) フィールドで ILOM SP の MAC アドレスを探し、IP Address (5 番目) フィールドの対応する値を記録します。これは、ILOM SP のシステム管理ファームウェアアプリケーションにアクセスするのに必要な IP アドレスです。
4. **ステップ 3** で入手した IP アドレスを使用して ILOM SP とのセッションを開きます。CLI または GUI インタフェースを使用できます。
- ILOM SP CLI への Secure Shell (SSH) 接続を確立するには、SSH アプリケーションで適切な接続コマンドを入力します。たとえば、DHCP が割り当てた IP アドレス、129.144.82.20 を使用して SP に接続するには、次のコマンドを入力します。
- ```
ssh -l root 129.144.82.20
```
- デフォルトのユーザー名は `root` で、`ssh` コマンドに含まれていました。入力を求められたら、SP のデフォルトのパスワード `changeme` を入力します。その後、コマンドを入力してユーザーアカウントの管理やサーバー上のデバイスのステータスの監視を行うことができます。図 2-2 の例を参照してください。



```
C:\Program Files\OpenSSH\bin>ping 129.144.82.20
Pinging 129.144.82.20 with 32 bytes of data:
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=93ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=78ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=93ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=78ms TTL=59
Ping statistics for 129.144.82.20:
 Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
 Approximate round trip times in milli-seconds:
 Minimum = 78ms, Maximum = 93ms, Average = 85ms
C:\Program Files\OpenSSH\bin>ssh -l root 129.144.82.20
root@129.144.82.20's password:
Last login: Thu Jan 1 00:12:53 1970 from 129.148.184.203
Linux 129.144.82.20 2.4.22 #12 Fri Jun 17 09:34:52 PDT 2005 ppc GNU/Linux
Sun Integrated Lights Out Manager
Version 1.0
Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.
->
```

図 2-2 SSH コマンドラインインタフェースを使用してセッションを開く

- ILOM SP Web GUI への接続を確立するには、ブラウザ検索ボックスに ILOM SP の IP アドレスを入力してから Enter キーを押します。たとえば、ILOM SP の IP アドレスが 129.144.02.20 の場合、図 2-3 に示すように入力します。最初の GUI ページでは、デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** の入力を求められます (図 2-1 を参照)。

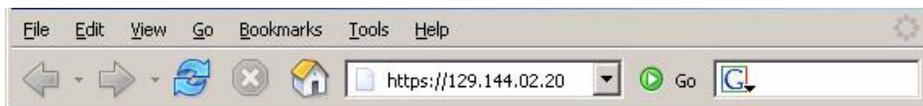


図 2-3 Web GUI を使用してセッションを開く

5. CLI または GUI でユーザー名とパスワードを入力したあと、インタフェースを使用して ILOM SP を設定できます。

システムの詳しい設定手順については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) を参照してください。

6. 27 ページの「オペレーティングシステムソフトウェアのセットアップ」に進みます。

## 静的イーサネット設定を使用した ILOM の設定

DHCP サーバーから ILOM SP に IP アドレスを割り当てる代わりに、静的 IP アドレスを割り当てることもできます。この設定には、Web GUI、ネットワークまたはシリアルポート経由の CLI、またはサーバーの BIOS セットアップユーティリティを使用できます。次の手順のいずれかを選択します。

- 24 ページの「Web GUI を使用した静的 IP アドレスの設定」
- 25 ページの「CLI を使用した静的 IP アドレスの設定」
- 26 ページの「BIOS セットアップユーティリティを使用した静的 IP アドレスの設定」

### Web GUI を使用した静的 IP アドレスの設定

1. 次のいずれかの場所から ILOM SP の現在の IP アドレスを特定します。
  - CLI コマンド。SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド **show /SP/network** を入力すると、現在の IP アドレスが表示されます。
  - システムの BIOS セットアップ画面。ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」→「IP address (IP アドレス)」を選択します。
2. リモートシステム上で実行中の Web ブラウザを使用して、ILOM SP に接続します。
3. デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** を使用して、Web GUI にログインします。
4. 「Configuration (設定)」タブとその「Network (ネットワーク)」タブを選択して、使用している ILOM SP の現在のネットワーク設定に関する情報を表示します。図 2-4 を参照してください。
5. 「Use the Following IP Address (次の IP アドレスを使用する)」オプションをクリックして、静的 IP アドレスの情報を入力します。図 2-4 の例を参照してください。

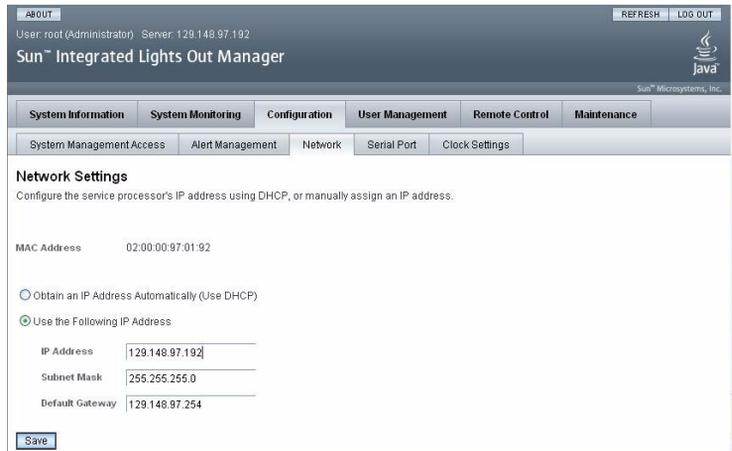


図 2-4 Integrated Lights Out Manager のネットワーク設定ページ

## CLI を使用した静的 IP アドレスの設定

1. SSH を使用するか、シリアルポートに接続して、CLI にログインします。  
ILOM CLI への Secure Shell (SSH) 接続を確立するには、SSH アプリケーションで適切な接続コマンドを入力します。たとえば、DHCP が割り当てた IP アドレス、129.144.82.20 を使用して SP に接続するには、次のコマンドを入力します。

```
ssh -l root 129.144.82.20
```

図 2-2 の例を参照してください。

2. 次の例の該当する箇所に自分のアドレスを使用して、次のコマンドを入力します。  
(次のコマンドに含まれるアドレスは例です。)

```
cd /SP/network
set pendingipaddress=129.144.82.26
set pendingipnetmask=255.255.255.0
set pendingipgateway=129.144.82.254
set pendingipdiscovery=static
set commitpending=true
```

## BIOS セットアップユーティリティを使用した静的 IP アドレスの設定

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」を選択します。
3. 「Advanced (詳細)」メニュー画面で、「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」を選択します。
4. 「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」画面から「LAN Configuration (LAN 構成)」を選択します。
5. 「LAN Configuration (LAN 構成)」画面で、「IP Assignment (IP 割り当て)」フィールドを「Static (静的)」に変更します。
6. 「IP Address (IP アドレス)」フィールドに静的 IP アドレスを入力します。  
サブネットマスクとデフォルトのゲートウェイ設定を対応するフィールドに入力することもできます。
7. 「Commit (コミット)」を選択し、Enter キーを押して、変更を実行します。
8. 「Current IP address in BMC (BMC の現在の IP アドレス)」フィールドに新しい静的 IP 設定を表示するには、「Refresh (リフレッシュ)」を選択し、Enter キーを押します。
9. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
10. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## オペレーティングシステムソフトウェアのセットアップ

---

第 2 章の説明に従って ILOM SP のネットワーク設定を完了したら、プリインストールされた Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) を設定するか、Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールすることができます。

使用する OS に応じて、次の適切なセクションまたはドキュメントを参照してください。

- プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムを使用する場合は、[28 ページの「プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定」](#)を参照してください。
- サポートされている Linux OS と必須ドライバをインストールする場合は、『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーのオペレーティングシステムインストールガイド』(820-0784) を参照してください。このドキュメントでは、メディアから Solaris オペレーティングシステムをインストールする手順についても説明しています。
- サポートされている Windows OS と必須ドライバをインストールする場合は、『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-0789) を参照してください。
- このサーバーに固有の OS に関するその他の注意点については、『Sun Fire X4600 サーバーご使用にあたって』(820-0774) または 『Sun Fire X4600 M2 サーバーご使用にあたって』(820-0799) を参照してください。

---

# プリインストールされた Solaris オペレーティングシステムの設定

このセクションでは、サーバーにプリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) の設定手順について説明します。

---

**注** – SPARC® システムとは異なり、サーバーの電源を入れてもモニターにプリインストールされた Solaris 10 イメージの出力は表示されません。プリインストールされたイメージは、サーバーに取り付けられたモニターではなく、シリアルコンソールに送られます。

---

プリインストールされた OS を設定するには、次の手順に従います。

1. [表 1](#) のワークシートを使用して、必要な情報を収集します。
2. ワークシートで収集した情報を使用して、OS を設定します。

## インストールのためのワークシート

[表 1](#) のワークシートを使用して、プリインストールされた Solaris 10 OS の設定に必要な情報を収集します。収集するのは使用しているシステムのアプリケーションに該当する情報だけで十分です。

表 1 インストールのためのワークシート

| インストールのための情報                      |         | 説明または例                                                                                                                             | 回答：<br>デフォルトはアスタリスク (*) で示されます。                                                                 |
|-----------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言語                                |         | Solaris ソフトウェアに使用できる言語をリストから選択します。                                                                                                 | 英語 *                                                                                            |
| 地域                                |         | サポート対象の地域のリストから自分の地域を選択します。                                                                                                        | 英語 (C - 7-bit ASCII) *                                                                          |
| 端末                                |         | 使用可能な端末タイプのリストから、使用している端末のタイプを選択します。                                                                                               |                                                                                                 |
| ネットワーク接続                          |         | システムはネットワークに接続されていますか？                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネットワークに接続されている</li> <li>• ネットワークに接続されていない *</li> </ul> |
| DHCP                              |         | ネットワークインタフェースの設定に DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用できますか？                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい</li> <li>• いいえ *</li> </ul>                         |
| DHCP を使用していない場合、ネットワークアドレスを入力します。 | IP アドレス | DHCP を使用していない場合、システムに IP アドレスを割り当てます。<br>例: 129.200.9.1                                                                            |                                                                                                 |
|                                   | サブネット   | DHCP を使用していない場合、システムはサブネットの一部ですか？<br>システムがサブネットの一部である場合、サブネットのネットマスクを入力します。<br>例: 255.255.0.0                                      | 255.255.0.0*                                                                                    |
|                                   | IPv6    | このマシンで IPv6 を有効にしますか？                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい</li> <li>• いいえ *</li> </ul>                         |
| ホスト名                              |         | システムに指定したホスト名                                                                                                                      |                                                                                                 |
| Kerberos                          |         | このマシンで Kerberos セキュリティを設定しますか？<br>Kerberos セキュリティを設定する場合、次の情報を収集します。<br><br>デフォルト Realm:<br>管理サーバー:<br>第 1 KDC:<br>(省略可) その他の KDC: | <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい</li> <li>• いいえ *</li> </ul>                         |

表 1 インストールのためのワークシート（続き）

| インストールのための情報                                   |            | 説明または例                                                                                                                                                                                                         | 回答：<br>デフォルトはアスタリスク（*）で示されます。                                                                                         |
|------------------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ネームサービス：システムでネームサービスを使用する場合、次の情報を指定します。</p> | ネームサービス    | このシステムで使用するネームサービスを入力します。                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>• NIS+</li> <li>• NIS</li> <li>• DNS</li> <li>• LDAP</li> <li>• なし*</li> </ul> |
|                                                | ドメインネーム    | システムが含まれているドメインの名前を入力します。                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                       |
|                                                | NIS+ と NIS | 自分でネームサーバーを指定しますか、あるいはインストールプログラムによって自動的に指定しますか？                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• IP アドレスを指定</li> <li>• 自動的に指定*</li> </ul>                                     |
|                                                | DNS        | <p>DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 個は入力する必要があります（最高 3 個）。</p> <p>DNS の問い合わせ時に検索するドメインのリストも入力できます。</p> <p style="text-align: right;">検索ドメイン：<br/>検索ドメイン：<br/>検索ドメイン：</p>                                        |                                                                                                                       |
|                                                | LDAP       | <p>LDAP プロファイルについて次の情報を入力します。</p> <p style="text-align: right;">プロファイル名：<br/>プロファイルサーバー：</p> <p>LDAP プロファイルにプロキシ認証レベルを指定する場合、次の情報を収集します。</p> <p style="text-align: right;">プロキシバインド識別名：<br/>プロキシバインドパスワード：</p> |                                                                                                                       |

表 1 インストールのためのワークシート（続き）

| インストールのための情報 | 説明または例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 回答：<br>デフォルトはアスタリスク (*) で示されます。                                                                      |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| デフォルトルート     | <p>自分でデフォルトルート IP アドレスを指定しますか、あるいは Solaris インストールプログラムによって自動的に指定しますか？</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジの役目を果たします。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する固有の数字です。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分で IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムのリブート時に、指定した IP アドレスがデフォルトのルートになります。</li> <li>• Solaris インストールプログラムを使用して、IP アドレスを検出できます。ただし、ICMP ルータディスカバリプロトコルを使用してそれ自身を公開するルータのあるサブネット上にシステムがあることが必要です。コマンドラインインタフェースを使用する場合、システムのブート時に IP アドレスが自動的に検出されます。</li> <li>• この時点でルータを使用していないか、ソフトウェアによって IP アドレスを検出しない場合には、「なし」を選択することもできます。ソフトウェアは、リブート時に IP アドレスを自動的に検出しようとします。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• IP アドレスを指定</li> <li>• IP アドレスを検出</li> <li>• なし *</li> </ul> |
| 時差           | デフォルトの時差を指定する方法を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域 *</li> <li>• GM からのオフセット</li> <li>• 時差ファイル</li> </ul>    |
| ルートパスワード     | システム用のルートパスワードを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                      |

# プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

設定時は、28 ページの「インストールのためのワークシート」で収集した情報を使用します。

サーバーに接続する別のシステムを使用して、プリインストールされた Solaris 10 OS の設定を実行できます。実行方法は次の 2 通りがあります。

- 32 ページの「サービスプロセッサの IP アドレスを使用したサーバーとの接続」  
この方法を使用する場合、最初にサービスプロセッサの IP アドレスを決定する必要がありますが、サーバーはネットワークに接続する必要があります。
- 34 ページの「シリアルキャプチャプログラムを使用したサーバーとの接続」  
この方法を使用する場合、サービスプロセッサの IP アドレスを決定する必要はありませんが、サーバーとシリアルキャプチャホストシステムのシリアルポート間のケーブル接続が必要になります。

## ▼ サービスプロセッサの IP アドレスを使用したサーバーとの接続

---

**注** – この手順は、サーバーがすでにイーサネットケーブルによってネットワークに接続されていることを前提としています。

---

1. サーバーがイーサネットケーブルによって接続されていない場合は、サービスプロセッサの IP アドレスを設定します。
  - a. 前面パネルのへこんだ電源ボタンをボールペンなどの先のとがったもので押して、プラットフォームの電源を入れます。
  - b. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティを起動します。
  - c. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」を選択します。
  - d. 「Advanced (詳細)」画面が表示されたら、「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」を選択します。  
「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」画面が表示されたら、「LAN Configuration (LAN 構成)」メニュー項目を選択します。
  - e. 「IP Address (IP アドレス)」メニュー項目を選択します。

サービスプロセッサの IP アドレスが次のフォーマットで表示されます。

Current IP address in BMC (BMC の現在の IP アドレス) :  
xxx.xxx.xxx.xxx

2. クライアントシステムを使用して、サービスプロセッサの IP アドレスと Secure Shell (SSH) の接続を確立します。

```
ssh -l root <SP_IP_アドレス>
```

3. サービスプロセッサに管理者としてログインします。たとえば、次のように入力します。

```
login (ログイン) : root
password (パスワード) : changeme
```

4. 次のように入力して、ILOM コンソールモードを開始します。

```
start /SP/console
```

5. SP シリアルポートのデフォルト設定を変更した場合は、必ずデフォルト設定にリセットします。

管理者権限のあるアカウントだけが、SP シリアルポートの設定を実行できます。『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) の「SP シリアルポートの設定方法」を参照してください。

6. Solaris 10 の画面の指示に従います。

7. 指示に対してシステムとネットワークの情報を入力するときに、[28 ページの「インストールのためのワークシート」](#)で収集した情報を使用します。

表示される画面は、ネットワーク情報をサーバーに割り当てるために選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって異なります。

システム構成情報を入力すると、サーバーのブート処理が完了し、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

## コンソール出力のビデオポートへのリダイレクト（省略可）



---

**注意** – この手順は Solaris の上級ユーザーのみを対象としています。bootenv.rc ファイルを誤って変更すると、サーバーの正常な動作が大きく阻害されたり、サーバーがブートできなくなる可能性があります。

---

前述の手順を完了して SP にログインするときに、コンソールの出力をビデオポートにリダイレクトするには、次の引数を使用してプロンプトで `eeprom` コマンドを実行します。

```
/eeprom console=text/
```

### ▼ シリアルキャプチャプログラムを使用したサーバーとの接続

1. ケーブルを使用して、サーバーのシリアルポートとシリアルキャプチャホストシステムのシリアルポートを接続します。
2. システムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。  
デフォルト設定は、9600 ボー、8N1（データビット 8、パリティなし、ストップビット 1）、フローコントロール無効です。

3. 端末セッションを開始して、シリアルポート出力をキャプチャします。

クライアントで動作する Solaris OS で、次のように入力します。

```
$tip -9600 /dev/ttya
```

クライアントで動作する Windows で、Hyperterminal などのプログラムを起動します。

クライアントで動作する Linux で、Minicom などのプログラムを起動します。Minicom は Linux ディストリビューションに含まれている、テキストベースのシリアル通信プログラムです。詳細は、Linux ディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。

4. サービスプロセッサに管理者としてログインします。たとえば、次のように入力します。

```
login (ログイン) : root
```

```
password (パスワード) : changeme
```

5. 次のように入力して、ILOM SP GUI を開始します。

```
start /SP/console
```

6. 前面パネルのへこんだ電源ボタンをボールペンなどの先のとがったもので押して、サーバーの電源を入れます。

OS のブート時に、POST メッセージが画面に表示されます。

7. Solaris 10 の画面の指示に従います。

8. 指示に対してシステムとネットワークの情報を入力するときに、28 ページの「インストールのためのワークシート」で収集した情報を使用します。

表示される画面は、ネットワーク情報をサーバーに割り当てるために選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって異なります。

システム構成情報を入力すると、サーバーのブート処理が完了し、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

---

## Solaris 10 ユーザーマニュアル

次の Web サイトで、Solaris 10 OS の各種ユーザーマニュアルを参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

特に、次の Web サイトでは「Solaris 10 OS Release and Installation Collection (Solaris 10 OS リリースおよびインストールコレクション)」にアクセスできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.1>

---

## Solaris 10 のトレーニング

Sun は、お客様のスケジュールと学習スタイルに応じて柔軟なトレーニングオプションを提供しています。講師によるクラス、Web ベースのオンラインのクラス、CD-ROM とライブ仮想クラスなどのオプションがあります。Solaris 10 のトレーニングおよび認定オプションの一覧については、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/training/catalog/solaris10.html>



# 索引

---

## I

### ILOM

- イーサネットの設定 21
- 概要 17
- クライアント側の Secure Shell 18
- サービスプロセッサハードウェア 18
- サービスプロセッサファームウェア 18
- シリアルで設定 19
- 静的イーサネットの設定 24
- ソフトウェアコンポーネント 18
- リモートコンソールアプリケーション 18

Integrated Lights Out Manager → 「ILOM」を参照

## S

### Solaris

- 参照ドキュメント 35
- プリインストールされた設定 28
- ワークシート 28

## い

イーサネット接続、サービスプロセッサ 21

## お

オペレーティングシステム、セットアップ 27

## か

概要、設置 1

## く

クライアント側の Secure Shell 18

## け

ケーブルの接続 13

## こ

後面パネルコネクタ 13

## さ

- サーバー電源オン 15
- サーバーのケーブル配線 13
- サーバーの電源投入 15
- サービスプロセッサ
  - イーサネットの設定 21
  - シリアルで設定 19
  - ハードウェア 18
  - ファームウェア 18

## し

シリアル接続、サービスプロセッサ 19

## せ

静的イーサネットの設定 24  
設置の概要 1

## と

取り付け、ラックへ 2

## ふ

プリインストールされた Solaris の設定 28

## ら

ラックへの取り付け 2

## り

リモートコンソールアプリケーション 18

## わ

ワークシート、Solaris 28